

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
令和4年度 研究報告書  
全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた  
方策の確立に資する疫学研究

**非認識受検の実態把握のこころみ；**  
**検診機関で肝炎ウイルス検査を受検した者を対象にした受検状況調査**

研究代表者 田中 純子<sup>1)</sup>

共同研究代表者 考藤 達哉<sup>2)</sup>

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）「肝炎総合政策の拡  
充への新たなアプローチに関する研」（厚労政策・拡充班 考藤達哉）と合同で実施

研究協力者 杉山 文<sup>1)</sup>、秋田 智之<sup>1)</sup>、佐古通<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学

<sup>2)</sup> 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター

<sup>3)</sup> (公財) 広島県地域保健医療推進機構

**研究要旨**

全国民における肝炎ウイルス検査の受検状況については、「肝炎検査受検状況実態把握調査」（国民調査）により把握されている。これまで同調査は、厚労省肝炎等克服政策研究事業により、2011年度、2017年度、2020年度に二つの研究班の共同で実施した（田中純子班、考藤達哉班、合同）。

2011年度国民調査では、B型・C型肝炎ウイルス検査の認識受援率はともに17.6%、非認識受検も含めた【検査受検経験率】は、B型58.4%、C型48.0%であった。

2017年度国民調査では、2011年度調査と比べて、HBV・HCVともに認識受検率には1%、検査受検経験率には10%以上の上昇がみられ、肝炎対策の取組みの成果と考えられた。

しかし、2020年度国民調査では、2017年度調査と比べて、3年経過したにもかかわらずHBV・HCVともに認識受検率が3%低下、検査受検経験率はほぼ変わらなかった（認識受検率HBV17.1%、HCV15.4%、検査受検経験率HBV71.1%、HCV59.8%）。

その原因としては、国民調査における、「認識受検」「非認識受検」「未受検」分類アルゴリズムでは、検査受検経験率を過小評価している可能性がある。すなわち、「住民検診・人間ドックなどで肝炎ウイルス検査を受検したが、そのことを忘れ、かつ非認識受検の条件である手術・妊娠・献血の経験がない人」を識別できず、「未受検者」として分類している可能性があるためである。

そこで、本研究では、住民検診で肝炎ウイルス検査を受検したことがある人を対象に郵送によるアンケート調査を行い、「未受検者」と分類される割合を把握することを目的とした。この割合を元に、2020年度国民調査の検査受検経験率の補正をこころみた。

県内の検診事業受託事業者の協力のもと、調査への協力を得られた広島県内8市町において、2020-2021年度の2年間に住民検診を受診した約20,000人のうち以下の2グループを対象とした。

- ① 2020-2021年度の住民検診で肝炎ウイルス検査を受検した全員（検査陽性者および陰性者）  
**1,916人**

② 2020-2021年度の住民検診では肝炎ウイルス検査を受検していない人から、無作為抽出した  
**2,200人**

その結果、以下の結果を得た。

1. ①の対象者のうち、993人（年齢中央値71歳、女性58%）から回答を得た（回答率51.8%）。
2. 993人中、半数以上（52.7%）は、受検歴を忘れていた。受検歴を忘れ、かつ手術・妊娠・献血の経験もないために、「未受検者」と誤分類される既受検者は、HBVでは既受検者全体の28.0%、HCVでは33.4%にのぼった。この割合をもとに、検査受検経験率を補正したところ、B型肝炎ウイルス検査受検経験率は71.1%から85.5%に、C型肝炎ウイルス検査受検経験率は59.8%から76.4%となった。
3. 2020-2021年度に実施された8市町の住民検診における肝炎ウイルス検査にて、HBs抗原陽性であった全10人中4人、HCV陽性であった全3人中2人は、医療機関受診歴を確認できなかった。
4. ②の対象者のうち、1,201人（年齢中央値71歳、女性51%）から回答を得た（回答率54.6%）。1,201人中、肝炎ウイルス検査を受検したことがあると回答した人は393人（32.7%）であり、その中でHBVに感染していると回答した人は22人、HCVに感染していると回答した人は16人であった。受療状況については、HBV感染者22人中、3人はこれまでに1度も医療機関を受診したことがないと回答し、1人は受診を自己中断していると回答した。HCV感染者16人の中には未受診者・受診自己中断者はいなかった。

以上より、

厚労省肝肝炎等克服政策研究事業の二つの研究班の共同で、肝炎ウイルス検査受検状況の把握を全国規模で2011年度、2017年度、2020年度に実施してきた。

その課題として本年度は、住民検診にて肝炎ウイルス検査を受検した人のうち、受検したことを忘れ、かつ非認識受検の条件（手術・妊娠・献血）に該当せず「未受検者」として誤分類されているものの割合を把握した。また、その割合を元に2020年度国民調査で得られた検査受検経験率の補正をこころみた。その結果、B型肝炎ウイルス検査受検経験率は71.1%から85.5%に、C型肝炎ウイルス検査受検経験率は59.8%から76.4%に、それぞれ補正された。

近年の肝炎対策の積極的な推進により、検査でみつかった陽性者の受療促進では関係機関の努力は続けられている。しかし、今回の調査により、依然として受療に結びついていないケースが存在することが明らかとなった。住民検診でみつける陽性者数は限られており、確実に受療に結びつくよう関係機関からの支援強化が望まれる。

## A. 研究背景

全国民における肝炎ウイルス検査の受検状況については、「肝炎検査受検状況実態把握調査」（国民調査）により把握されている。これまで同調査は、厚労省肝肝炎等克服政策研究事業により、2011年度、2017年度、2020年度に二つの研究班の共同で実施した（田中純子班、考藤達哉班、合同）。

同調査では、「肝炎ウイルス検査を受検したと回答し、なおかつ受けた種類を覚えているもの」を「認識受検」と定義した。また、「肝炎ウイルス検査を受け

たことがない、またはわからないと回答し、かつ大きな外科手術（HBV 1982年以降/HCV 1993年以降）・妊娠（HBV 1986年以降/HCV 1993年以降）・献血（HBV 1973根に港/HCV 1990年以降）により検査を受けていると考えられるもの」を「非認識受検」と定義している。

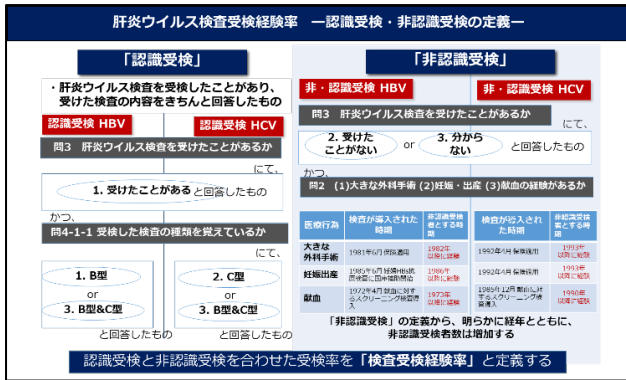


図 1. 肝炎ウイルス検査 認識受検・非認識受検の定義

その結果、2011 年度国民調査では、B 型・C 型肝炎ウイルス検査の認識受検率はともに 17.6%、非認識受検も含めた【検査受検経験率】は、B 型 58.4%、C 型 48.0%であった。

6 年後に行われた 2017 年度国民調査では、前回調査と比べて、HBV・HCV ともに認識受検率には 1%、検査受検経験率には 10%以上の上昇がみられ、肝炎対策の取組みの成果と考えられた（認識受検率 HBV20.1%、HCV18.7%、検査受検経験率 HBV71.0%、HCV61.6%）。

一方、2020 年度国民調査では、2017 年度調査と比べて、3 年経過したにもかかわらず HBV・HCV ともに認識受検率が 3%低下、検査受検経験率はほぼ変わらなかった（認識受検率 HBV17.1%、HCV15.4%、検査受検経験率 HBV71.1%、HCV59.8%）。

国民調査における、「認識受検」「非認識受検」「未受検」分類アルゴリズムでは、検査受検経験率を過小評価している可能性がある。すなわち、「住民検診・人間ドックなどで肝炎ウイルス検査を受検したが、そのことを忘れ、かつ非認識受検の条件である手術・妊娠・献血の経験がない人」を識別できず、「未受検者」として分類している可能性があるためである。

そこで、本研究では、住民検診で肝炎ウイルス検査を受検したことがある人を対象に郵送による関するアンケート調査を行い、「未受検者」と分類される割合を把握することを目的とした。この割合を元に、2020 年度国民調査の検査受検経験率の補正をこころみた。

## B. 研究目的

本研究の目的は、住民検診にて肝炎ウイルス検査を受検した人のうち、受検したことを忘れ、かつ非認識受検の条件（手術・妊娠・献血）に該当せず「未受検者」として把握されているものの割合を把握し、その割合を元に 2020 年度国民調査で得られた検査受検経験率を補正することである。

さらに、検査陽性者がその後の治療に結びついていくかどうかの実態も把握する。

## C. 研究方法

### 1. 調査対象

県内の検診事業受託事業者の協力のもと、調査への協力を得られた広島県内 8 市町（府中市、三次市、大竹市、江田島市、安芸太田町、大崎上島町、世羅町、神石高原町）において、2020-2021 年度の 2 年間に住民検診を受診した約 20,000 人のうち、以下の 2 グループを対象とした。

- ③ 2020-2021 年度の住民検診で肝炎ウイルス検査を受検した全員（検査陽性者および陰性者）**1,916 人**
- ④ 2020-2021 年度の住民検診では肝炎ウイルス検査を受検していない人から、無作為抽出した **2,200 人**

① ②合計 **4,116 人**

なお、②については、

2,200 人を 8 市町の人口比で按分し、市町ごとの抽出人数を決め、各市町の性別年齢階級別人口（年齢 5 階級：40 代、50 代、60 代、70 代、80 代以上）に合わせて対象者を無作為に抽出した。

### 2. 調査方法

住民検診事業の受託機関である広島県地域保健医療推進機構の協力のもと、対象者の肝炎ウイルス検査結果（2020-2021 年度分）も含めたリストを作成した。

対象者に対し、アンケートへの協力依頼状ならびに調査票を郵送し、返信封筒または WEB 回答にて回収した。

調査への回答期間は 2022 年 12 月 2 日から 12 月 26 日までとした。

調査項目は、以下のとおりである（文末資料参照）。

- ① B型肝炎・C型肝炎の認知状況
- ② 肝炎ウイルス検査受検状況
- ③ 肝炎ウイルス検査を受検したきっかけ、場所
- ④ 検査陽性者の医療機関受診、肝臓専門医紹介・受診状況、未受療の場合その理由
- ⑤ 肝炎ウイルス検査未受検の場合、その理由
- ⑥ 手術、妊娠、献血経験の有無と該当年度
- ⑦ 肝炎対策・行政の取り組みの認知
- ⑧ 対象者基本情報（性別、年齢、居住地、職種）

#### 【倫理的配慮】

本研究は広島大学疫学倫理審査委員会の承認を得て行った（第E-1480号）。

## D. 研究結果

### 1. 対象者

- ① 広島県内8市町において、2020-2021年度の住民検診で肝炎ウイルス検査を受検した全員（検査陽性者および陰性者）1,916人のうち、993人（51.8%）から回答を得た。993人の年齢中央値は71歳（四分位範囲64-77歳、範囲30-93歳）、女性58%であった。
- ② 広島県内8市町において、2020-2021年度の住民検診を受診し、同年度の住民検診では肝炎ウイルス検査を受検していない人から無作為抽出した2,200人のうち、1,201人（54.6%）から回答を得た。1,201人の年齢中央値は71歳（四分位範囲61-79歳、範囲40-93歳）、女性54%であった。

### 2. ①2020-2021年度の住民検診で肝炎ウイルス検査を受検した993人の解析結果

#### （ア）肝炎ウイルス検査受検歴を忘れている割合

「肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか」という質問に対し、「受けたことがある」と正しく回答した人は993人中412人（41.7%）、「受けたことがない/わからない」と回答した人は520人（52.7%）であった。

1, 2年前に行われた住民検診で肝炎ウイルス検査を受けた人のうち、41.7%しか検

査を受けたことを認識していなかった。

#### （イ）国民調査の分類アルゴリズムでは未受検者として把握される割合

住民検診で肝炎ウイルス検査を受けた993人のうち、回答に不備がなく、国民調査の「認識受検」「非認識受検」「未受検」分類アルゴリズムによる分類が可能であったのは、B型肝炎ウイルス検査では783人、C型肝炎ウイルス検査では781人であった。

そのうち、検査受検歴を正しく認識しており、「認識受検」と分類される人は、B型肝炎ウイルス検査では33.4%、C型肝炎ウイルス検査では、30.9%であった。一方、検査受検歴を忘れており、手術・妊娠・献血歴もないことから、本当は受検歴があるにもかかわらず「未受検」と誤判別される割合は、B型肝炎ウイルス検査では28.0%、C型肝炎ウイルス検査では、33.4%であった。

#### （ウ）2020年度国民調査の検査受検経験率を補正

住民検診における肝炎ウイルス検査の既受検者が、「認識受検」と分類される割合（=Aとする）と、「未受検」と誤分類される割合（=Bとする）の比B/Aを、2020年度国民調査の認識受検率に乗ずることで、住民検診での受検歴を忘れていた既受検者数を補填した（B型肝炎ウイルス検査率では14.4%、C型肝炎ウイルス検査率では16.6%分の上乗せ）。その結果、検査受検経験率は、B型肝炎ウイルス検査では71.1%から85.5%に、C型肝炎ウイルス検査では59.8%から76.4%に補正された。

#### （エ）検診結果からHBs抗原陽性であった全10人の受療状況

993人中、検診結果からHBs抗原陽性であ

った人は10人（陽性率1.0%）であった。

10人の平均年齢（SD）は70（12.1）歳、女性70%であった。肝炎ウイルス検査の受検経験については9人が「ある」と回答し、1人は無回答であった。HBVに感染していると回答した人は10人中7人、残りの3人は無回答であった。医療機関受診状況については、10人中3人は現在継続受診中、2人は「受診し、治療・治癒したため、今は受診していない」、1人は「受診したが、医師より受診を終了してよいと言われ、今は受診していない」と回答した。残りの4人は無回答であった。受診歴のある6人中4人が最初に受診したのは「かかりつけ医」であり、そのうち2人は肝臓専門医に紹介され、1人はかかりつけ医が肝臓専門医であった。肝臓専門医への受診が確認できたのは、その3人のみ（30%）であった。

### (オ) 検診結果から HCV 陽性\*であった3人の受療状況

993人中、肝炎ウイルス検査手順2012に基づくHCV感染判定によってHCV陽性\*と判定された人は3人（陽性率0.3%）であった。

3人の平均年齢（SD）は77（7.1）歳、女性33.3%であった。肝炎ウイルス検査の受検経験については3人中2人が「ある」と正しく回答し、1人は「ない」と誤回答した。HCVに感染していると回答した人は3人中1人であり、残りの2人は無回答であった。医療機関受診状況については、3人中1人は「受診したが、自己判断で通院を中止し、今は受診していない」と回答し、肝臓専門医への受診については無回答であった。残りの2人については、受診状況について無回答であった。

\*HCV抗体高力価陽性、もしくはHCV中低力価陽性かつHCV RNA陽性

### 3. ②2020-2021年度に住民検診を受診したが、その際に肝炎ウイルス検査は受けていない人から無作為抽出した1,201人を対象とした解析結果

#### (ア) 年齢別 認識・非認識別にみた肝炎ウイルス検査受検率

2020-2021年度に住民検診を受診したが、その際に肝炎ウイルス検査は受けていない1,201人のうち、回答に不備がなく、国民調査の「認識受検」「非認識受検」「未受検」分類アルゴリズムによる分類が可能であったのは、B型肝炎ウイルス検査では946人、C型肝炎ウイルス検査では951人であった。

B型肝炎ウイルス検査の認識受検率は全体では35.2%、非認識受検率は46.0%、未受検率は28.9%であった。40代から70代までの年代別認識受検率を、2020年度国民調査と比べると、今回の対象者の方がいずれの年代においても高値であった（40代22.8%vs18.5%、50代31.4%vs18.9%、60代33.9%vs21.5%、70代22.5%vs14.6%）。

C型肝炎ウイルス検査の認識受検率についても同様に、年代別認識受検率は2020年度国民調査よりも高い傾向であった（40代23.8%vs15.3%、50代26.2%vs16.1%、60代30.7%vs18.1%、70代21.4%vs14.1%）。

今回の対象者は住民検診受診者であることから、一般集団よりも健康への意識が高く、検査結果をよく覚えている可能性が考えられた。

#### (イ) 肝炎ウイルス検査結果が陽性だったと回答した人の医療機関受診状況

2020-2021年度に住民検診を受診したが、その際に肝炎ウイルス検査は受けていない1,201人のうち、「肝炎ウイルス検査を受検したことがある」と回答したのは393人（32.7%）であった。

そのうち、HBVに感染していると回答した22人、HCVに感染していると回答した16人に、医療機関受診状況を尋ねた。その結果、HBV感染者では22人中1人は一度も受診したことがなく、3人は受診を自己中断中であった（未受診または受診自己中断18.2%）。一方、HCV感染者では16人中、未受診または受診自己中断中の人はいなかった。

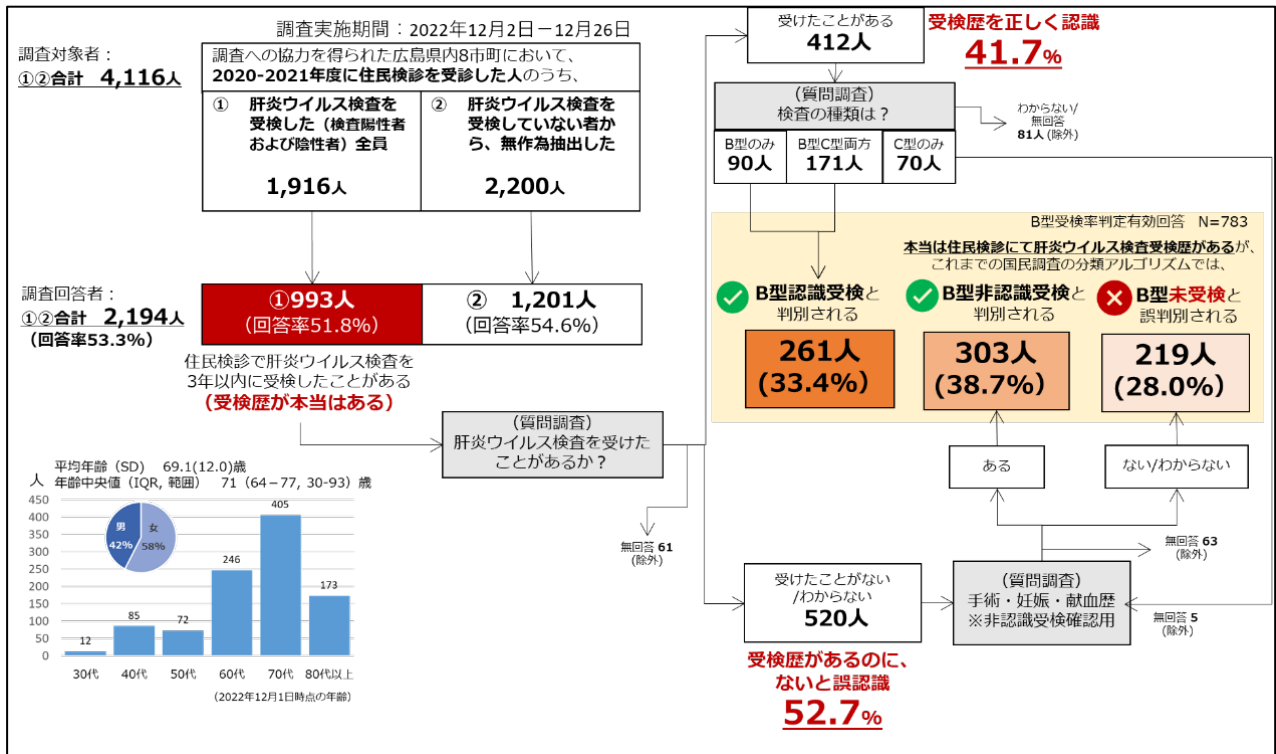


図2. 住民検診で肝炎ウイルス検査を受けた対象者をHBV「認識受検」「非認識受検」「未受検」に分類（国民調査の分類アルゴリズム）

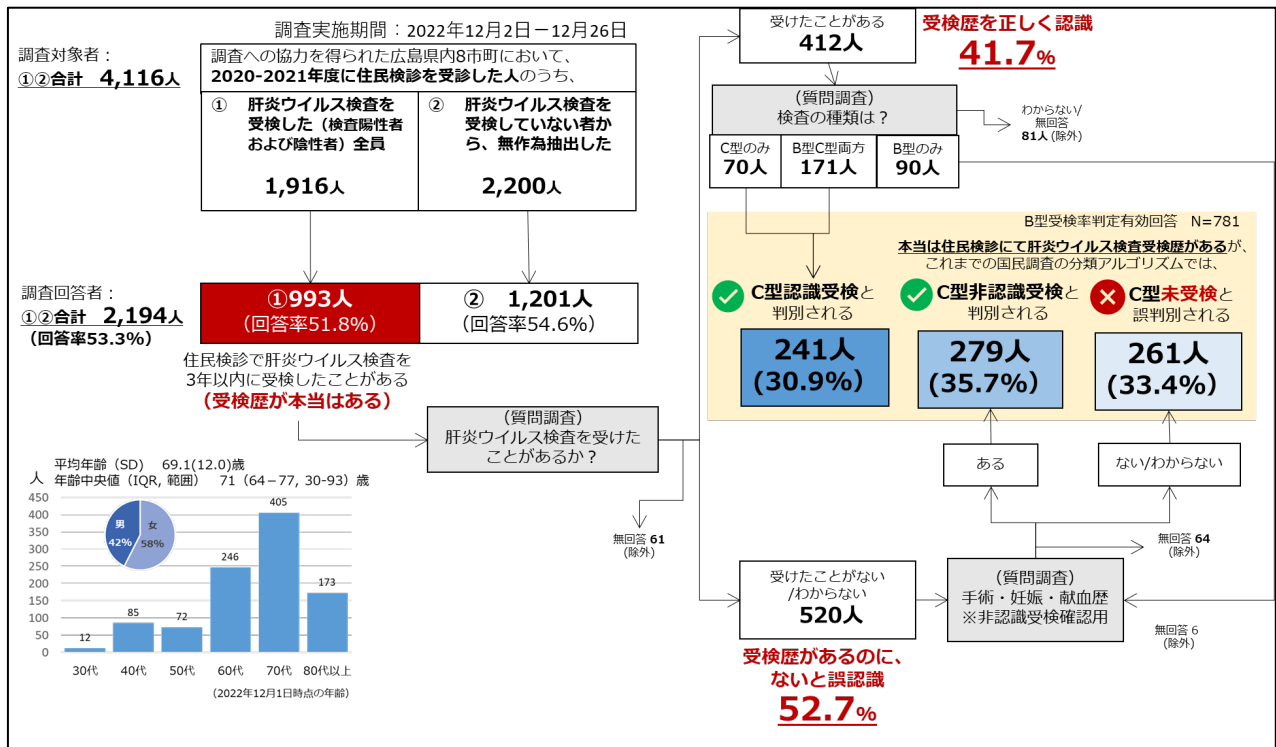


図3. 住民検診で肝炎ウイルス検査を受けた対象者をHCV「認識受検」「非認識受検」「未受検」に分類（国民調査の分類アルゴリズム）

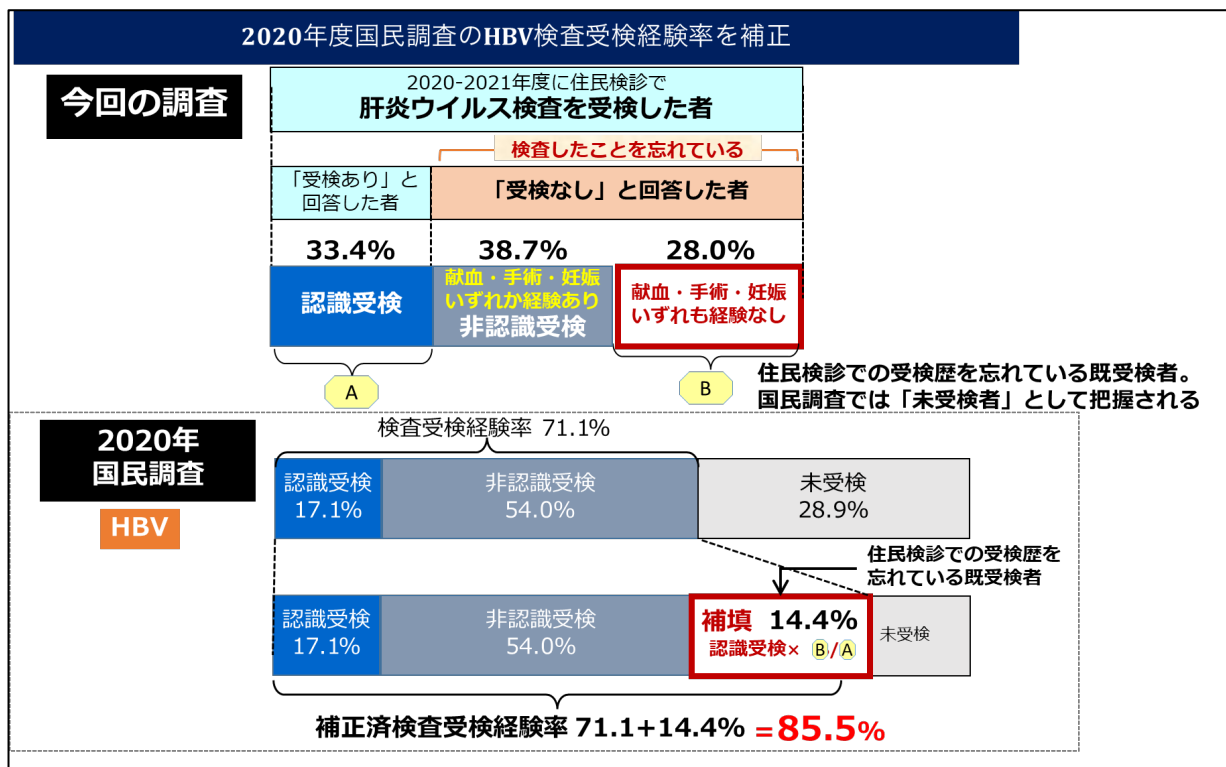


図4 2020年度国民調査のHBV検査受検経験率を補正

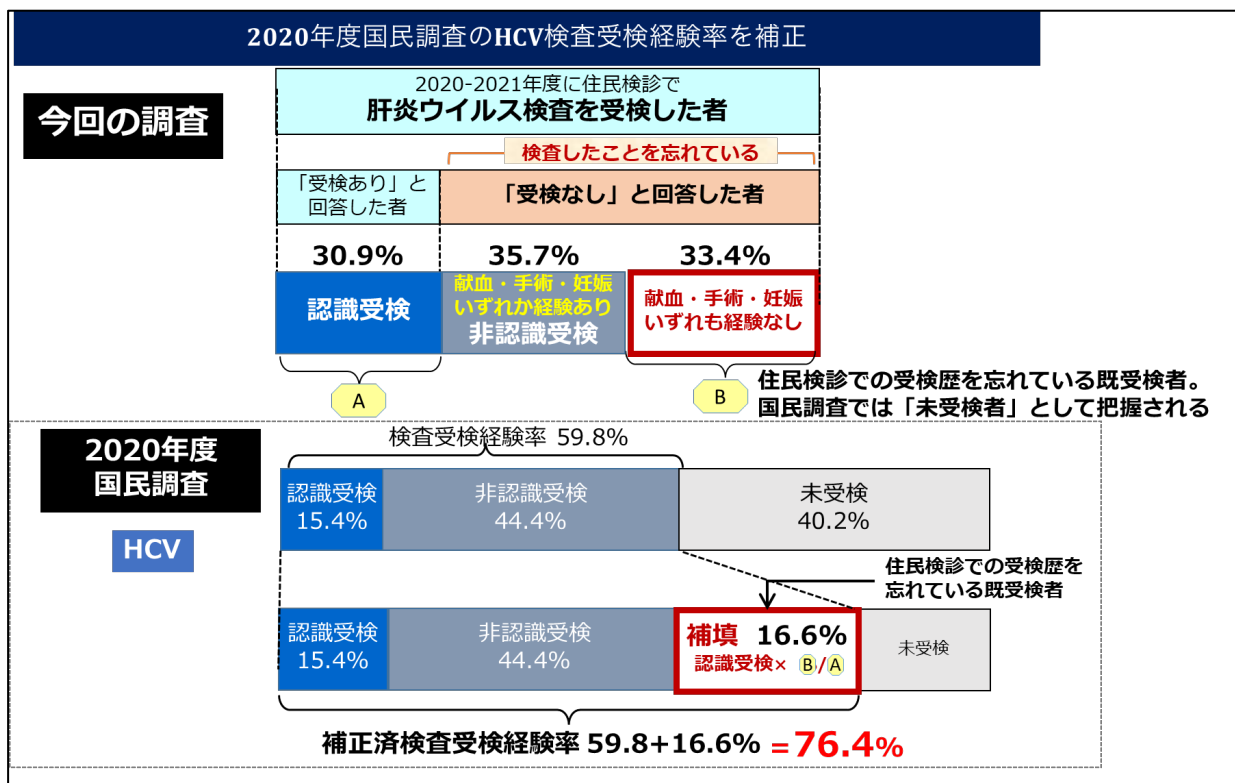
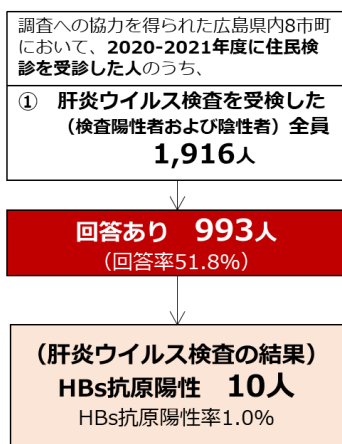


図5 2020年度国民調査のHCV検査受検経験率を補正



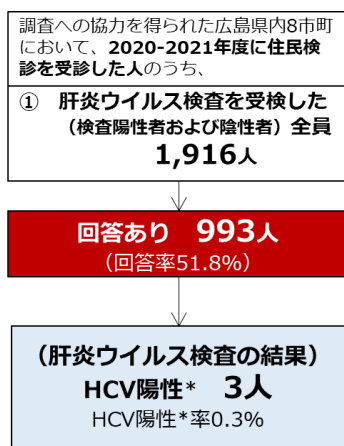
表1 2020-2021年度に住民検診にて肝炎ウイルス検査を受診し、HBs抗原陽性だった10人のアンケート回答結果



**2020-2021年度に住民検診にて肝炎ウイルス検査を受診し、HBs抗原陽性だった10人**

アンケート回答結果									
Case	年齢	性別	肝炎ウイルス検査の受検経験	検査の結果を知っているか	具体的な検査結果	医療機関を受診したか	かかりつけ医か	最初に受診した医療機関はか	肝臓専門医を紹介されたか
1	42	女	ある	知っている	HBV陽性	継続受診中	YES	紹介され、受診した	
2	61	女	ある	知っている	HBV陽性	継続受診中	YES	紹介され、受診した	
3	65	男	ある	知っている	HBV陽性	継続受診中	YES	かかりつけ医が肝臓専門医	
4	68	女	ある	知っている	HBV陽性	—	—	—	
5	71	女	ある	覚えていない	—	—	—	—	
6	74	男	ある	知っている	HBV陽性	治療後、終診	NO	—	
7	76	女	—	—	—	—	—	—	
8	76	男	ある	知っている	HBV陽性	医師より終診と言われた	NO	—	
9	76	女	ある	知っている	—	—	—	—	
10	91	女	ある	知っている	HBV陽性	治療後、終診	YES	その他	
平均 (SD) 70 (12.1) 歳		女性 70%	受検経験を認識 90%	HBV陽性結果を認識 70%		医療機関受診 60% 継続受診 30%	YES:NO = 4 : 2	肝臓専門医受診 30%	

表2 2020-2021年度に住民検診にて肝炎ウイルス検査を受診し、HCV陽性だった3人のアンケート回答結果



**2020-2021年度に住民検診にて肝炎ウイルス検査を受診し、HCV陽性\* だった3人**

アンケート回答結果									
Case	年齢	性別	肝炎ウイルス検査の受検経験	検査の結果を知っているか	具体的な検査結果	医療機関を受診したか	かかりつけ医か	最初に受診した医療機関はか	肝臓専門医を紹介されたか
1	71	男	ある	知っている	HCV陽性	受診したが自己中断	NO	—	
2	73	男	ない	—	—	—	—	—	
3	87	女	ある	知っている	—	—	—	—	
平均 (SD) 77 (7.1) 歳		女性 33.3%	受検経験を認識 66.7%	HBV陽性結果を認識 70%		医療機関受診 33.3% 継続受診 0%			



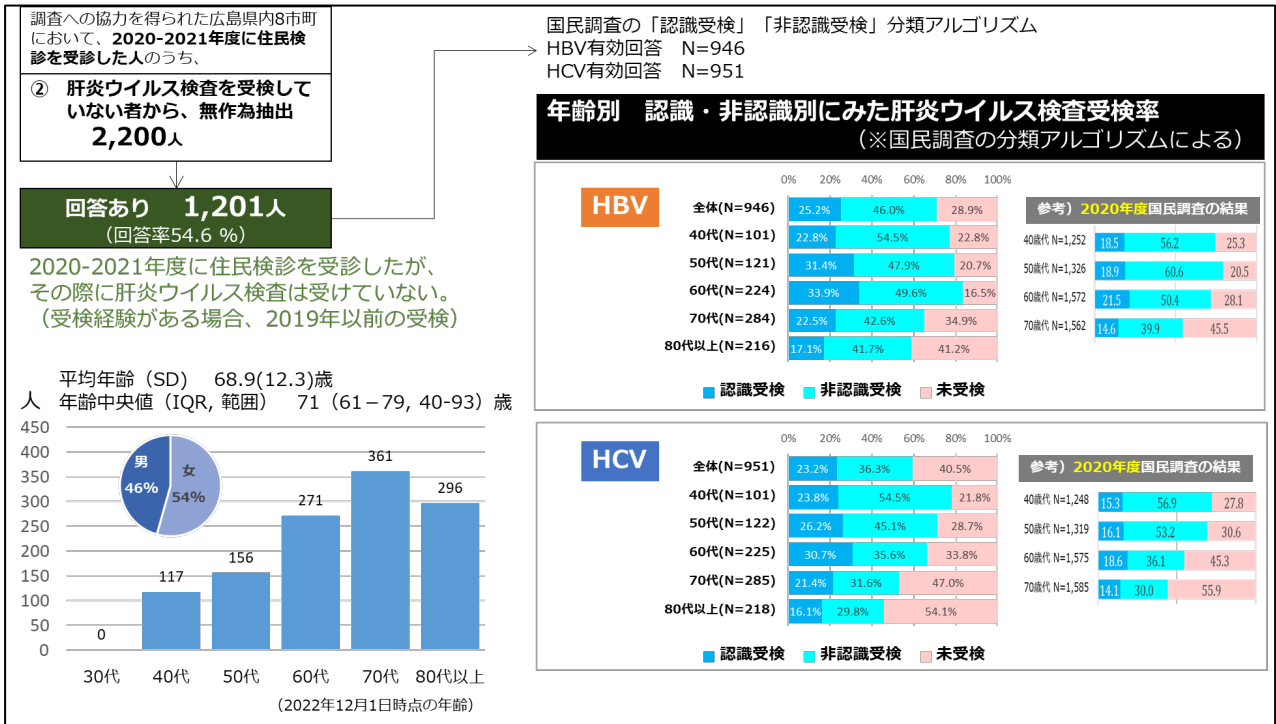


図6 年齢別 認識・非認識別にみた肝炎ウイルス検査受検率

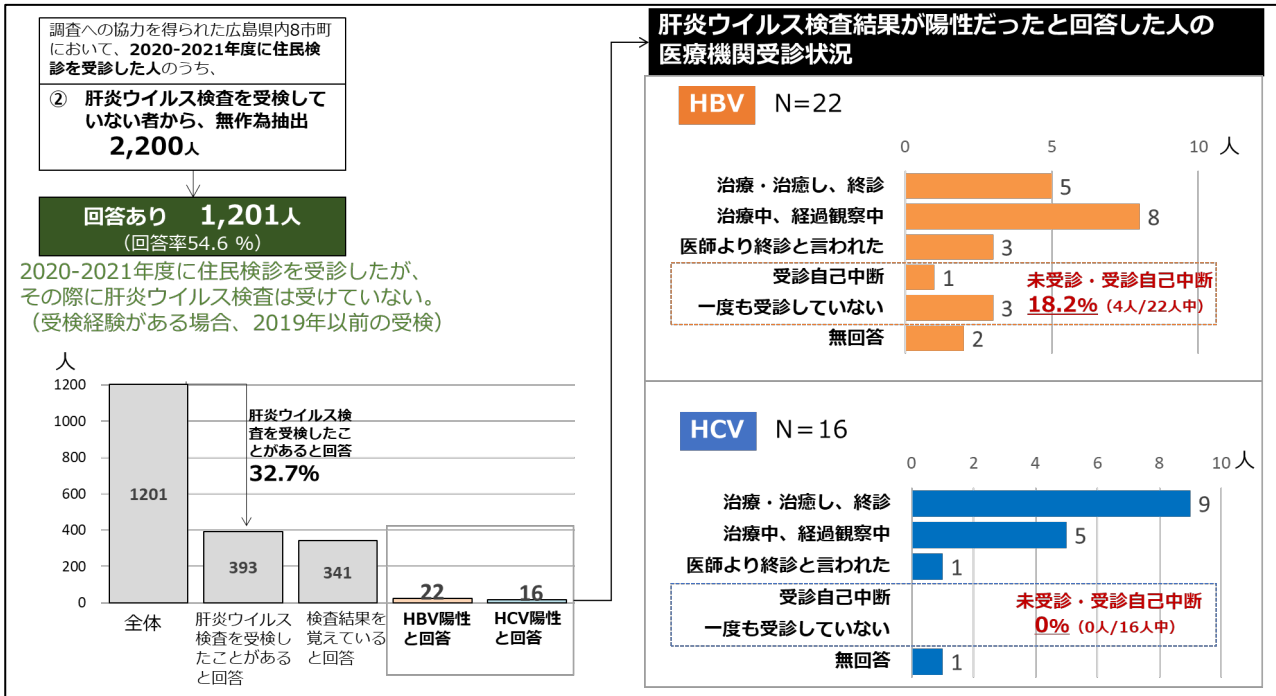


図7 肝炎ウイルス検査が陽性だったと回答した人の医療機関受診状況

## E. 考察

2020年度国民調査では、2017年度調査と比べて、3年経過にもかかわらずHBV・HCVともに認識受検率が3%低下、検査受検経験率はほぼ変わらなかった（認識受検率HBV17.1%、HCV15.4%、検査受検経験率HBV71.1%、HCV59.8%）。

国民調査における、「認識受検」「非認識受検」「未受検」分類アルゴリズムでは、「住民検診・人間ドックなどで肝炎ウイルス検査を受検したが、そのことを忘れ、かつ非認識受検の条件である手術・妊娠・献血の経験がない人」を識別できず、「未受検者」として分類しているため、検査受検経験を過小評価している可能性がある。

本研究では、検診事業受託事業者の協力のもと、住民検診で肝炎ウイルス検査を受検したことがある人を対象とした「肝炎ウイルス検査受検状況に関するアンケート調査」（郵送調査）を行い、「未受検者」と分類される割合を把握することで、検査受検経験率の補正をこころみた。

その結果、1、2年前に受けた住民検診において肝炎ウイルス検査を受検した人のうち、半数以上（52.7%）は、受検歴を忘れていたことが明らかとなった。受検歴を忘れ、かつ手術・妊娠・献血の経験もないために、「未受検者」と誤分類される既受検者は、HBVでは既受検者全体の28.0%、HCVでは33.4%にのぼった。この割合をもとに、検査受検経験を補正したところ、B型肝炎ウイルス検査受検経験率は71.1%から85.5%に、C型肝炎ウイルス検査受検経験率は59.8%から76.4%となった。

ただし、今回の調査対象者は住民検診受診者であることから、一般集団よりも健康への意識が高く、検査結果をよく覚えている可能性がある。本調査において、2020-2021年度に住民検診を受診した集団1,201人（同年度には肝炎ウイルス検査受検なし）における年代別肝炎ウイルス検査「認識受検率」が2020年度国民調査よりも高値であったことは、その可能性を支持する。すなわち、国民全体における検査受検経験率は、今回の補正結果よりもさらに高値である可能性も考えられる。

2020-2021年度に実施された住民検診における肝炎ウイルス検査にて、HBs抗原陽性であった全10人中4人、HCV陽性であった全3人中2人は、医療機

関受診歴を確認できなかった。

近年の肝炎対策の積極的な推進により、検査でみつかった陽性者の受療促進では、関係機関の努力は続けられている。しかし、今回の調査により、依然として受療に結びついていないケースが存在することが明らかとなった。住民検診でみつかると陽性者数は限られており、確実に受療に結びつくよう関係機関からの支援強化が望まれる。

## F. 結論

厚労省肝炎等克服政策研究事業の二つの研究班の共同で、肝炎ウイルス検査受検状況の把握を全国規模で2011年度、2017年度、2020年度に実施してきた。

その課題として本年度は、住民検診にて肝炎ウイルス検査を受検した人のうち、受検したことを忘れ、かつ非認識受検の条件（手術・妊娠・献血）に該当せず「未受検者」として誤分類されているものの割合を把握した。また、その割合を元に2020年度国民調査で得られた検査受検経験率の補正をこころみた。その結果、B型肝炎ウイルス検査受検経験率は71.1%から85.5%に、C型肝炎ウイルス検査受検経験率は59.8%から76.4%に、それぞれ補正された。

## G. 健康危険情報

なし

## H. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## I. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

## 肝炎ウイルス検査受検状況実態把握調査

- 【調査票のご記入にあたって】
- ◇この調査は、国庫の贈り物として、どの程度肝炎検査を受けたか、どの程度肝炎検査についてご存知かをお聞きするものです。本調査は、厚生労働省行政推進調査事業費補助金「肝炎等感染病政策研究事業（肝炎総合対策の拡充）」の新たなアプローチに関する研究（研究代表者：考藤達哉）および「全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学調査」班（研究代表者：田中純子）が公益財団法人、広島県地域保健医療推進機構の協力のもと実施しております。ご回答いただいた内容は、今後の肝炎検査受検についての普及啓発のための政策立案の基礎資料として、肝炎総合対策のより一層の充実強化を図る目的で活用されます。何とぞご協力をお願い申し上げます。
  - ◇この調査の対象者は、広島県地域保健医療推進機構が受託した住民健診を受けられた方の中から無作為に選ばれた方となっております。この調査票をお送りした際の封筒の宛名の氏名の方がお答えください。よろしくお願いいたします。
  - ◇この調査において「肝炎検査」とは、特に説明が無い場合はB型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査両方のことを指します（それ以外の型の肝炎ウイルス検査については含めません）。
  - ◇質問の中で、「あてはまる番号ひとつに○をつけて」いただくもの、「あてはまる番号すべてに○をつけて」いただくものがあります。質問の指示に従い、あてはまる番号に直接○をつけてください。また、「その他」の項目番号を選んだ場合には、( ) 内に内容を具体的にご記入ください。
  - ◇本研究は、広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得ています（E-2018-1780-03）。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査票は、**令和4年12月26日（月）**までにご回答いただきます。同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。よろしくお願いいたします。

厚生労働省行政推進調査事業費補助金「肝炎等感染病政策研究事業（肝炎総合対策の拡充）」の新たなアプローチに関する研究班  
 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター  
 研究センター長 / 肝炎情報センター長 考藤 達哉  
 厚生労働省行政推進調査事業費補助金「全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学調査」班  
 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 疫学・感染制御学 教授 田中 純子

【調査問合せ先】  
**肝炎ウイルス検査受検状況実態把握調査 アンケート調査事務局**  
**0120-696-603**

受付：土日祝を除く10：00～17：00（12：00～13：00は除く）  
 開設期間：2022年12月26日（月）まで

- この調査は、以下の①、②どちらかの方法で、お答えください。
- ① スマートフォンなどで答える  
 右の二次元コードをスマートフォンやタブレット端末等で読み込み、あなたのログインID（半角英数字6桁）を入力の上、必要事項をご回答ください。紙の調査票のご返送は不要です。
  - ② 調査票（本紙）に記入して答える  
 この調査票にご記入いただき、**12月26日（月）**までに、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。



あなたの  
ログインID→

## ■ ■ ■ ここから質問が始まります ■ ■ ■

**問1** あなたは、B型肝炎、C型肝炎をご存知ですか、あてはまる回答を以下の（1）（2）の選択欄にそれぞれ○をご記入ください（あてはまる番号それぞれひとつに○をつけてください）。

(1) B型肝炎	1. 具体的な症状や治療方法について知っている 2. 名前を知っている 3. 知らない
(2) C型肝炎	1. 具体的な症状や治療方法について知っている 2. 名前を知っている 3. 知らない

**問2** あなたご自身は、過去、以下の(1)～(5)についてご経験がありますか。

- (1) それぞれの経験について、お答えください（あてはまる番号ひとつに○をつけてください）。
- (Ⅰ) 経験がある場合はその時期をお答えください（複数回の経験がある場合は最近経験した時期）。

種類	(Ⅰ)：経験の有無	(Ⅱ)：時期
(1) 大きな外科手術 (全身麻酔での手術)	1. ある → 時期が「ある」場合、最近の時期 2. ない → 西暦・昭和・平成・令和 ( ) 年頃	
(2) 妊娠・出産【女性のみに記入】	1. ある → 時期が「ある」場合、最近の時期 2. ない → 西暦・昭和・平成・令和 ( ) 年頃	
(3) 献血	1. ある → 時期が「ある」場合、最近の時期 2. ない → 西暦・昭和・平成・令和 ( ) 年頃	
(4) 市町村などが実施する健康診断や人間ドック	1. ある → 時期が「ある」場合、最近の時期 2. ない → 西暦・昭和・平成・令和 ( ) 年頃	
(5) 職場が実施する検診	1. ある → 時期が「ある」場合、最近の時期 2. ない → 西暦・昭和・平成・令和 ( ) 年頃	

**問3** あなたは今までに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか

（あてはまる番号ひとつに○をつけてください）。

1. 受けたことがある      2. 受けたことがない      3. 分からない

【1と答えた方】  
 引き継ぎ、以下の問4にお進みください

【2・3と答えた方】  
 5ページにお進みいただき、問5からお答えください。

**【医療機関を受診されなかった方への質問】**

問 4. (9) 医療機関を受診されなかったのはどのような理由ですか  
(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 忙しいから
2. 医療機関に行くのが面倒だったから
3. 医療機関に行く必要がないと思ったから
4. 医療機関に行く機会がなかったから
5. 医師から受診しなくていいと言われたから
6. 治療費がかかるから
7. どこに行けばいいかわからないから
8. 悪い結果を言われるのがいやだから
9. 肝機能や体調に問題がないから
10. その他 ( )

**問 6 へお進みください**

**【肝臓ウイルス検査を受けたことがない方にかかいます】**

問 5 (1) 検査を受けていない理由はどのような理由からですか  
(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 忙しいから
2. 検査に行くのが面倒だから
3. 費用がかかるから
4. 検査をしてくれない機関や場所がよく分らないから
5. 定期的に受けている機関・診断等のメニューにないから
6. 自分は感染していないと思うから
7. 悪い結果を言われるのがいやだから
8. きっかけがなかったから
9. その他 ( )
10. 特に理由は無い
11. 分からない、覚えていない
12. 検査について知らないから

問 5 (2) 今後、機会があれば検査を受けてみたいと思えますか

(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)

1. ぜひ受けてみたい
2. どちらかといえば受けてみたい
3. 受けたくない
4. 分からない

問 5 (3) どのような行政機関があれば肝臓ウイルス検査を受けてみたいと思えますか

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 検査の期間や検査の費用をもっと提供する
2. 検査を受ける理由、検査を受けることでどのような効果があるのか具体的に示す
3. 自分がいまつかかっている医師との連携をとる
4. 検査にかかる費用を安くする
5. 職場や地域（公民館等）など検査を受けられる場所を多くする
6. 夜間や土休日等検査を受けることができる時間帯を多くする
7. 定期的に受けている機関・診断等のメニューに加える
8. その他 ( )
9. 特にない、分からない

**問 6 へお進みください**

**【全ての方におたずねします】**

問 6 (1) 肝炎ウイルス検査の普及啓発に向けて現在、行政では以下の取組みが行われています。

以下の取組みのうち、ご存知の名をお答えください  
(あてはまる番号すべてに○をつけてください)。

- |   |  |
|---|--|
| 1. 肝炎ウイルス検査(費用や検査が可能な場所など)に関して記載した広報誌での情報提供 |  |
| 2. 肝臓病(肝炎、肝硬変、肝臓の癌など)に関して記載した広報誌での情報提供      |  |
| 3. インターネットホームページでの情報提供                      |  |
| 4. チラシ、ポスター等の職場への配布                         |  |
| 5. チラシ、ポスター等の医療機関への配布                       |  |
| 6. リーフレットの作成・配布                             |  |
| 7. 公開講座、講習会、研修会、シンポジウム等の開催                  |  |
| 8. イベントでの普及啓発、街頭キャンペーン                      |  |
| 9. 個人宛にハガキなどで検査を通知することによる受検勧奨               |  |
| 10. 検査にかかる費用の無料化、補助                         |  |
| 11. テレビ広報(ケーブルテレビを含む)                       |  |
| 12. ラジオ広報                                   |  |
| 13. 新聞広告、折込み広告                              |  |
| 14. その他( )                                  |  |
| 15. 上記についてはすべて知らぬ                           |  |

問 6 (2) 厚生労働省では、肝炎ウイルス検査の受検普及啓発活動「知って、肝炎プロジェクト」を推進しています。このことをご存知でしたか(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)。

- |        |  |
|--------|--|
| 1. はい  |  |
| 2. いいえ |  |

問 7 近年では、肝炎は、インターフェロンや飲み薬などの抗ウイルス剤などによる治療が効果に達したことにより、早期に検査して発見し、早期に適切な治療を受ければ、B 型肝炎ウイルス感染については肝炎が完治化できる、あるいは、C 型肝炎ウイルス感染についてはウイルスを完全に治療できる人の割合が高くなってきています。これを受けて、厚生労働省では以下(1)(2)(3)の取組みを進めています。

以下の取組みについてお答えください(あてはまる番号それぞれひとつに○をつけてください)。

(1) 保健所や一部医療機関では、今まで検査を受けたことのない人を対象に、「肝炎ウイルス検査」を無料で実施しています。このことをご存知でしたか。

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 知っていた  |  |
| 2. 知らなかった |  |

(2) 検査の結果、肝炎ウイルスに感染していることが判明した方を対象に、平成 27 年頃から初回の精密検査や定期検査の一部は公費補助を受けられます。このことをご存知でしたか。

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 知っていた  |  |
| 2. 知らなかった |  |

(3) 検査の結果、インターフェロンや飲み薬などの抗ウイルス剤による治療が必要と診断された人を対象に、平成 20 年度から治療費の一部は公費補助を受けられます。このことをご存知でしたか。

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 知っていた  |  |
| 2. 知らなかった |  |

問 8 地方自治体では、厚生労働省の指針にしがたい、肝炎の患者さんが安心して検査や治療を受けたり、日常生活を送ることができるよう、検査、治療方法、服薬、治療費の助成制度など肝炎に関する幅広い知識とスキルを持ち、地域で活躍できる人材として肝炎医療コーディネーターの育成を行っています。このことをご存知でしたか(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)。

- |        |  |
|--------|--|
| 1. はい  |  |
| 2. いいえ |  |

問 9 あなたの性別についてお答えください(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)。

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 男性     |  |
| 2. 女性     |  |
| 3. 答えたくない |  |

問 10 あなたの年齢についてお答えください(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1. 20～29 歳 | 4. 50～59 歳 | 7. 80～85 歳 |
| 2. 30～39 歳 | 5. 60～69 歳 |            |
| 3. 40～49 歳 | 6. 70～79 歳 |            |

問 11 あなたの職業についてお答えください(あてはまる番号ひとつに○をつけてください)。

- |                                   |                                   |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 公務従事者                          | 8. 農林漁業                           |
| 2. 医療従事者以外の専門技術職<br>(技術者、教員、研究者等) | 9. 運輸通信業<br>(運転士、電報交換手、郵便配達・集配員等) |
| 3. 管理職(会社団体の役員、管理職等)              | 10. 生産労働業                         |
| 4. 専門職                            | 11. 主婦・主夫                         |
| 5. 営業販売業                          | 12. 学生                            |
| 6. サービス業(接客係、美容師、調理師等)            | 13. その他( )                        |
| 7. 保安業(警備員、監視員等)                  | 14. 無職                            |

■■■■問意は以上です。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。■■■■

		①2020-2021年度の住民検診で 肝炎ウイルス検査を受けた993 人の回答結果		②2020-2021年度に住民検診を 受診したが、その際に肝炎ウイル ス検査を受けていない人から無作 為抽出した1,201人の回答結果	
		993		1201	
		N	%	N	%
居住地域		回答対象者			
安芸太田町	全員	349	35.1%	44	3.7%
江田島市		12	1.2%	166	13.8%
三次市		138	13.9%	342	28.5%
神石高原町		19	1.9%	64	5.3%
世羅町		251	25.3%	89	7.4%
大崎上島町		7	0.7%	64	5.3%
大竹市		73	7.4%	184	15.3%
府中市		144	14.5%	248	20.6%
性別					
男性	全員	422	42.5%	548	45.6%
女性		571	57.5%	653	54.4%
検診受診年齢					
最大値	全員	92	-	93	-
四分位点(75%)		76	-	79	-
中央値		70	-	70	-
四分位点(25%)		63	-	60	-
最小値		28	-	40	-
平均		67.9	-	68.3	-
標準偏差		12.0	-	12.4	-
検診受診年齢分布(年代別)					
20~29歳	全員	1	0.1%	0	0.0%
30~39歳		16	1.6%	0	0.0%
40~49歳		89	9.0%	132	11.0%
50~59歳		73	7.4%	154	12.8%
60~69歳		285	28.7%	281	23.4%
70~79歳		391	39.4%	349	29.1%
80~89歳		133	13.4%	274	22.8%
90歳~	5	0.5%	11	0.9%	
回答方法					
調査票回答	全員	922	92.8%	1112	92.6%
WEB回答		71	7.2%	89	7.4%
Q1(1) あなたは、B型肝炎をご存知ですか					
具体的な症状や治療方法について知っている	全員	73	7.4%	115	9.6%
名前は聞いたことがある		808	81.4%	980	81.6%
知らない		37	3.7%	36	3.0%
無回答		75	7.6%	70	5.8%
Q1(2) あなたは、C型肝炎をご存知ですか					
具体的な症状や治療方法について知っている	全員	71	7.2%	128	10.7%
名前は聞いたことがある		770	77.5%	930	77.4%
知らない		69	6.9%	68	5.7%
無回答		83	8.4%	75	6.2%
Q2(I)(1) 大きな外科手術(全身麻酔での手術)の経験の有無					
ある	全員	349	35.1%	403	33.6%
ない		589	59.3%	735	61.2%
無回答		55	5.5%	63	5.2%
Q2(I)(2) 妊娠・出産の経験の有無【女性のみ記入】					
ある	女性	490	85.8%	552	84.5%
ない		52	9.1%	54	8.3%
無回答		29	5.1%	47	7.2%
Q2(I)(3) 献血の経験の有無					
ある	全員	522	52.6%	598	49.8%
ない		411	41.4%	534	44.5%
無回答		60	6.0%	69	5.7%
Q2(I)(4) 市町村などが実施する健康診断や人間ドックの経験の有無					
ある	全員	917	92.3%	1111	92.5%
ない		42	4.2%	47	3.9%
無回答		34	3.4%	43	3.6%
Q2(I)(5) 職場が実施する検診の経験の有無					
ある	全員	518	52.2%	620	51.6%
ない		339	34.1%	431	35.9%
無回答		136	13.7%	150	12.5%
Q3 あなたは今までに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがありますか					
受けたことがある	全員	412	41.5%	393	32.7%
受けたことがない		396	39.9%	576	48.0%
分からない		124	12.5%	174	14.5%
無回答		61	6.1%	58	4.8%



		①2020-2021年度の住民検診で 肝炎ウイルス検査を受検した993 人の回答結果		②2020-2021年度に住民検診を 受診したが、その際に肝炎ウイル ス検査は受けていない人から無作 為抽出した1,201人の回答結果	
		993		1201	
回答対象者		N	%	N	%
<b>Q4(1) 検査受検したきっかけはどの理由ですか【複数回答】</b>					
40歳以上を対象とした検診の通知が、市町村から自分個人宛に送られてきたため	Q3で「受けたことがあ る」と回答した人	151	36.7%	130	33.1%
都道府県や政令市の「フレットやホーム」で、保健所・医療機関での無料の健診を知ったため		81	19.7%	58	14.8%
職場（加盟健康保険組合等を含む）での定期健康診断の項目にあったため		66	16.0%	62	15.8%
人間ドックの検査項目にあったため		69	16.7%	48	12.2%
手術前の検査、内視鏡検査前などの際に検査されたため		23	5.6%	38	9.7%
検診での検査等により、医師等が必要と判断したため		14	3.4%	18	4.6%
妊娠・出産時の検査のため		12	2.9%	19	4.8%
親族や知り合いに肝炎にかかった人がいたため		26	6.3%	30	7.6%
献血した際に検査されたため（日本赤十字社によるもの）		25	6.1%	24	6.1%
気になる症状があり、病院を受診したときに、医師等が必要と判断したため		10	2.4%	21	5.3%
その他		32	7.8%	24	6.1%
特に理由はない（なんとなく）	17	4.1%	23	5.9%	
<b>Q4(2) 受検した場所はどこですか【複数回答】</b>					
保健所	Q3で「受けたことがあ る」と回答した人	23	5.6%	26	6.6%
肝炎ウイルス検査を受検することを目的として行った医療機関（病院・診療所）		88	21.4%	90	22.9%
肝炎ウイルス検査以外の目的で行った医療機関（病院・診療所）		96	23.3%	112	28.5%
職場		34	8.3%	47	12.0%
日本赤十字社の血液センター（献血ルーム等を含む）		25	6.1%	15	3.8%
その他		156	37.9%	108	27.5%
分からない、覚えていない	24	5.8%	25	6.4%	
<b>Q4(3) 受けられた検査の種類はどの検査ですか</b>					
B型肝炎ウイルス検査	Q3で「受けたことがあ る」と回答した人	90	21.8%	85	21.6%
C型肝炎ウイルス検査		70	17.0%	59	15.0%
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査の両方		171	41.5%	162	41.2%
分からない、覚えていない		71	17.2%	85	21.6%
無回答		10	2.4%	2	0.5%
<b>Q4(4) 検査の結果をご存知ですか</b>					
知っている	Q3で「受けたことがあ る」と回答した人	363	88.1%	341	86.8%
知らない（結果待ちを含む）		1	0.2%	7	1.8%
分からない、覚えていない		26	6.3%	26	6.6%
検査は受けたが検査結果の説明は受けていない		14	3.4%	11	2.8%
無回答		8	1.9%	8	2.0%
<b>Q4(5) 差し支えなければ検査結果をお知らせください</b>					
B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスいずれも陰性（感染していなかった）	Q4(4)で「知っている」 と回答した人	330	90.9%	294	86.2%
B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスいずれも陽性（感染していた）		0	0.0%	4	1.2%
B型肝炎ウイルスのみ陽性（感染していた）		12	3.3%	18	5.3%
C型肝炎ウイルスのみ陽性（感染していた）		9	2.5%	12	3.5%
言いたくない		0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	3.3%	13	3.8%	
<b>Q4(6) 結果を受けて、医療機関を受診しましたか</b>					
受診し、治療・治癒したため、今は受診していない	Q4(4)で、B型肝炎ウイル ス、C型肝炎ウイル スいずれかの結果が陽性で あった人	7	33.3%	12	35.3%
受診し、現在も継続して定期的を受診している（治療中、経過観察中）		5	23.8%	12	35.3%
受診したが、医師より受診を終了してよいと言われ、今は受診していない		7	33.3%	4	11.8%
受診したが、自己判断で通院を中止し、今は受診していない		1	4.8%	1	2.9%
一度も受診していない		0	0.0%	3	8.8%
無回答		1	4.8%	2	5.9%
<b>Q4(7) あなたが肝炎ウイルス陽性の結果を相談するために最初に受診したのは、あなたの“かかりつけ医”でしたか</b>					
はい	Q4(6)で、結果を受けて 一度は医療機関を受診し たことがある人	12	60.0%	18	62.1%
いいえ		8	40.0%	9	31.0%
覚えていない		0	0.0%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	2	6.9%
<b>Q4(8) あなたは、かかりつけ医から肝臓専門医を紹介されましたか</b>					
かかりつけ医を受診した際に肝臓専門医を紹介され、その後肝臓専門医を受診した	Q4(7)で「はい」と回答 した人	4	33.3%	12	66.7%
かかりつけ医を受診した際に肝臓専門医を紹介されたが、肝臓専門医を受診しなかった		0	0.0%	0	0.0%
かかりつけ医を受診した際に肝臓専門医を紹介されず、肝臓専門医を受診したことはない		3	25.0%	0	0.0%
かかりつけ医を受診した際に肝臓専門医を紹介されなかったが、自分で肝臓専門医を探して受診した		0	0.0%	0	0.0%
かかりつけ医は肝臓専門医だったので、紹介は不要であった		1	8.3%	5	27.8%
かかりつけ医を受診した際に肝臓専門医を紹介されたどうかは覚えていない		1	8.3%	1	5.6%
その他		3	25.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	



		①2020-2021年度の住民検診で 肝炎ウイルス検査を受検した993 人の回答結果		②2020-2021年度に住民検診を 受診したが、その際に肝炎ウイル ス検査は受けていない人から無作 為抽出した1,201人の回答結果	
		993		1201	
		N	%	N	%
<b>Q4(9) 医療機関を受診されなかったのはどのような理由ですか【複数回答】</b>					
忙しいから	Q4(6)で「一度も受診し ていない」と回答した人	0	-	0	0.0%
医療機関に行くのが面倒だったから		0	-	0	0.0%
医療機関に行く必要がないと思ったから		0	-	1	33.3%
医療機関に行く機会がなかったから		0	-	0	0.0%
医師から受診しなくていいと言われたから		0	-	0	0.0%
治療費が掛かるから		0	-	0	0.0%
どこに行けばいいかわからないから		0	-	0	0.0%
悪い結果を言われるのがいやだから		0	-	0	0.0%
肝機能や体調に問題がないから		0	-	2	66.7%
その他		0	-	1	33.3%
<b>Q5(1) 検査を受けていない理由はどのような理由からですか【複数回答】</b>					
忙しいから	Q3で「受けたことがな い」、または「分からな い」と回答した人	18	3.5%	15	2.0%
検査に行くのが面倒だから		23	4.4%	30	4.0%
費用がかかるから		42	8.1%	59	7.9%
検査をしてくれる機関や場所がよく分からないから		97	18.7%	123	16.4%
定期的を受けている健康診断等のメニューにないから		187	36.0%	283	37.7%
自分は感染していないと思うから		121	23.3%	210	28.0%
悪い結果を言われるのがいやだから		6	1.2%	5	0.7%
きっかけがなかったから		134	25.8%	169	22.5%
その他		10	1.9%	13	1.7%
特に理由はない		143	27.5%	196	26.1%
分からない、覚えていない	65	12.5%	84	11.2%	
検査について知らないから	93	17.9%	150	20.0%	
<b>Q5(2) 今後、機会があれば検査を受けてみたいと思いますか</b>					
ぜひ受けてみたい	Q3で「受けたことがな い」、または「分からな い」と回答した人	89	17.1%	114	15.2%
どちらかといえば受けてみたい		228	43.8%	315	42.0%
受けたくない		31	6.0%	55	7.3%
分からない		146	28.1%	222	29.6%
無回答		26	5.0%	44	5.9%
<b>Q5(3) どのような行政施策があれば肝炎ウイルス検査を受けてみたいと思いますか【複数回答】</b>					
検査の時間や場所の情報をもっと提供する	Q3で「受けたことがな い」、または「分からな い」と回答した人	114	21.9%	178	23.7%
検査を受ける理由、検査を受けることでどのような効果があるのか具体的に示す		149	28.7%	254	33.9%
自分がいつもかかっている医者との連携をとる		108	20.8%	172	22.9%
検査にかかる費用を安くする		104	20.0%	190	25.3%
職場や地域（公民館等）など検査を受けられる場所を多くする		82	15.8%	104	13.9%
夜間や土休日等検査を受けることができる時間帯を多くする		17	3.3%	38	5.1%
定期的を受けている健康診断等のメニューに加える		268	51.5%	439	58.5%
その他		5	1.0%	7	0.9%
特になし、分からない		72	13.8%	89	11.9%
<b>Q6(1) 肝炎ウイルス検査の普及啓発に向けて現在、行政では以下の取組みが行われています。以下の取組みのうち、ご存知のものをお答えください【複数回答】</b>					
肝炎ウイルス検査（費用や検査が可能な場所など）に関して記載した広報誌での情報提供	全員	290	29.2%	301	25.1%
肝臓病（肝炎、肝硬変、肝臓の症状など）に関して記載した広報誌での情報提供		168	16.9%	176	14.7%
インターネットホームページでの情報提供		27	2.7%	39	3.2%
チラシ、ポスター等の職場への配布		30	3.0%	37	3.1%
チラシ、ポスター等の医療機関への配布		120	12.1%	124	10.3%
リーフレットの作成・配布		20	2.0%	31	2.6%
公開講座、講習会、研修会、シンポジウム等の開催		19	1.9%	26	2.2%
イベントでの普及啓発、街頭キャンペーン		32	3.2%	28	2.3%
個人宛にハガキなどで検査を通知することによる受検勧奨		112	11.3%	97	8.1%
検査にかかる費用の無料化、補助		164	16.5%	186	15.5%
テレビ広報（ケーブルテレビを含む）		261	26.3%	309	25.7%
ラジオ広報		54	5.4%	51	4.2%
新聞広告、折り込み広告		108	10.9%	141	11.7%
その他		17	1.7%	24	2.0%
上記についてはすべて知らない		245	24.7%	352	29.3%
<b>Q6(2) 厚生労働省では、肝炎ウイルス検査の受検普及啓発活動「知って、肝炎プロジェクト」を推進しています。このことをご存知でしたか</b>					
はい	全員	138	13.9%	126	10.5%
いいえ		820	82.6%	1029	85.7%
無回答		35	3.5%	46	3.8%
<b>Q7(1) 保健所や一部医療機関では、今まで検査を受けたことのない人を対象に、「肝炎ウイルス検査」を無料で実施しています。このことをご存知でしたか</b>					
知っていた	全員	213	21.5%	186	15.5%
知らなかった		759	76.4%	987	82.2%
無回答		21	2.1%	28	2.3%

		①2020-2021年度の住民検診で 肝炎ウイルス検査を受けた993 人の回答結果		②2020-2021年度に住民検診を 受診したが、その際に肝炎ウイル ス検査を受けていない人から無作 為抽出した1,201人の回答結果	
		993		1201	
回答対象者		N	%	N	%
Q7(2) 検査の結果、肝炎ウイルスに感染していることが判明した方を対象に、平成27年度から初回の精密検査や定期検査の一部は公費補助を受けられます。このことをご存知でしたか					
知っていた	全員	107	10.8%	97	8.1%
知らなかった		851	85.7%	1071	89.2%
無回答		35	3.5%	33	2.7%
Q7(3) 検査の結果、インターフェロンや飲み薬などの抗ウイルス剤による治療等が必要と診断された人を対象に、平成20年度から治療費の一部は公費補助を受けられます。このことをご存知でしたか					
知っていた	全員	101	10.2%	99	8.2%
知らなかった		854	86.0%	1069	89.0%
無回答		38	3.8%	33	2.7%
Q8 地方自治体では、厚生労働省の指針にしたがい、肝炎の患者さんが安心して検査や治療を受けたり、日常生活を送ることができるように、検査、治療方法、服薬、治療費の助成制度など肝炎に関する幅広い知識とスキルを持ち、地域で活躍できる人材として肝炎医療コーディネーターの育成を行っています。このことをご存知でしたか					
はい	全員	29	2.9%	35	2.9%
いいえ		932	93.9%	1143	95.2%
無回答		32	3.2%	23	1.9%
職業					
医療従事者	全員	17	1.7%	24	2.0%
医療従事者以外の専門技術職（技術者、教員、研究者等）		20	2.0%	24	2.0%
管理職（会社団体の役員、管理職等）		11	1.1%	15	1.2%
事務職		40	4.0%	38	3.2%
営業販売職		21	2.1%	13	1.1%
サービス職（理容師、美容師、調理師等）		52	5.2%	69	5.7%
保安職（警備員、監視員等）		5	0.5%	4	0.3%
農林漁業職		118	11.9%	106	8.8%
運輸通信職（運転士、電話交換手、郵便配達・集配員等）		6	0.6%	13	1.1%
生産労働職		34	3.4%	42	3.5%
主婦・主夫		273	27.5%	324	27.0%
学生		1	0.1%	0	0.0%
その他		32	3.2%	48	4.0%
無職		325	32.7%	447	37.2%
パート・アルバイト		25	2.5%	26	2.2%
無回答		13	1.3%	8	0.7%

